

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200941		
法人名	株式会社サンプレラ		
事業所名	グループホームパラソル倉敷中庄 (青空)		
所在地	倉敷市中庄2371-1		
自己評価作成日	令和 7 年 3 月 4 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200941-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 7 年 3 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居前との生活とのつながりが途切れないよう馴染の場所へ外出を支援し、家族や馴染のひととの関わりを持てるように努めています。敷地内に畑があり、四季折々の野菜を入居者様と一緒に育てています。昔の経験を活かし生き生きと畑作業をされ、スタッフも色々と勉強させていただいております。それぞれのできることを活かし役割を持っていただいたり、生活にとって必要な動作について、できることはご自身で行っていただけるような支援を心がけております。又、表情豊かに暮らしていただけるよう、お一人おひとりに合わせた作業・運動・野外活動や、ボランティアの方による催し物、プロの方によるアロママッサージやオンラインエクササイズも行っています。特定技能実習生のスタッフが、自国の料理や文化の紹介をする機会を設け、入居者様やスタッフ同士の関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として挙げられるのは、次の2点である。まず、1階・2階の連絡をスムーズに行うための手段としてインカムを導入することで、職員間に一体感が生まれると共に、人出不足の解消やヒアリハット・事故の軽減に繋がっていること。次に、配食による食事提供が基本であるが、管理栄養士の指導のもと、月一回、買い物から調理まで全て手作りする機会を設け、食事の楽しさや喜びを提供していることがある。工夫点は、チームワーク良くケアにあたれるよう一日の流れを作成していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの人生を過ごされた方々の経緯を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を図りながら、個々のニーズに沿った支援を行うことにより、日々充実した生活の提供と理念の周知を実施。	各階の共有ホールに法人理念を掲示し、周知している。また、法人理念に基づいた理念を各階で作成している。外国人介護職員に対しては思いやりを持ち、実践を通じて周知している。個人評価(年2回)の際に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへ参加させていただいた。また、地域のボランティアセンターへも出かけ交流を図るようにしている。	中庄夏祭りに参加したり、地域ボランティアセンターがやってるランチを食べに行ったりして、地域と交流している。また、家族による獅子舞踊りを鑑賞したり、子供たちの演奏を見て楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進への参加の呼びかけ等行っており、少しずつではあるが協力を得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、頂いたアドバイスや意見はスタッフ間で共有し、サービス向上に活かしている。	市の担当者や地域包括、民生委員、近隣地域のグループホームなどが参加して、2ヶ月に一回開催している。地域ボランティアセンターがやってるランチのお店に行ったり、「ニヤリホット」を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方へ不明な点、判断に困るような事は相談させて頂いている。	施設長が窓口となり、相談することがあれば直接出向いたり、電話連絡して連携している。また、運営推進会議にも(毎回ではないが)出席しており、現状や利用者の状況を報告しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議・カンファレンス時には何が拘束なのかスタッフ間で共有し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、夜間のみとさせて頂き、離設に繋がらないように散歩やドライブで気分転換を図っている。	年四回、委員会と研修を行っている。研修は身体拘束に関するオンデマンド配信を視聴し、報告書を作成・提出している。外国人介護職員に対しては、母国語によるオンデマンド配信を視聴してもらい、直接個別に指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設けて、日常の声かけやケアにおいてスタッフ間で注意を払っている。異常が発見された場合は、原因を究明しスタッフ全員に報告し、指導を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者の方がいる為、実際に入居者の方との関わりを持ちながら制度を学んでいる。又、会議・カンファレンス時にスタッフ間で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には必ずわかりやすい言葉で十分な説明を納得頂けるまで行い、不安や疑問点をなくすように努めている。わからない事等あれば随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族等の意見・要望について申し送りノートに記載し、スタッフ間で共通理解を図り運営に反映している。又玄関にご意見箱を設置している。	利用者は日常生活の中で、家族は面会時や電話連絡した際に意見や要望を聞いている。出された意見は、廊下を使用した歩行訓練や畑作業、美術館のカレンダーの購入・掲示などに反映している。また、聞き取った意見等は各階に設けている申し送りノートに記載し、全職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時等にスタッフの現状改善意見を出し合い、問題解決改善を行い反映させている。会議に参加できない時は各自のレターボックスを活用し徹底するようにしている。	スタッフミーティングや施設長との個別面談(年2回)の中で意見や提案を聞いている。また、何かあればその都度、話を聞いている。出された意見は、就業時間や外部研修への参加、必要物品の購入などに反映している。チームワークを乱す行為や出来ない職員を攻撃することはタブーであり、前向きに建設的な意見を出して欲しいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、労働契約更新時には話し合える場を設けている。役割担当等責任感を持たせることにより、意識向上・やりがいを持たせるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人に必要と思われる研修に参加してもらっている。様々な研修の案内を事務所に掲示し、声かけにより参加を促している。スキルに合った指導の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や研修等で知り合った同業者と情報交換を行っており、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでには必ずご本人様面談をさせて頂き、しっかり話を聞かせていただくようにしている。情報はスタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるご本人様同様ご家族様とも事前にしっかりと話しをさせていただき、本音を聞けるようなコミュニケーションを図っている。不安を取りのぞき、安心して任せて頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、情報をいただくと同時に本人様・ご家族様の思い等を聞かせていただくようにしている。何が必要で、求められていることはどのようなことかを見極め、満足していただけるサービスの提供を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ等できることはしていただき、難しいところを一緒に行い、共同作業をしながら毎日楽しく過ごされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在のご本人の状態を共有し、相談しながら支援の協力をいただいている。ご本人様の食べたい物やお好きな物等を連絡し、持って来ていただくこともある。入居者様の様子を載せた通信を見られご家族様も安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事等を企画する時は、入居者様の意見も取り入れながら、馴染の場へ出向く機会を設けている。又、友人や知人からの電話や面会の際には、次の面会に繋がるような声かけを意識している。	馴染みのホームセンターに買い物に行ったり、小・中学校の同級生からの電話を取り次いだり、家族からの手紙を本人に渡し、読めなければ読んであげたりして、馴染みの関係継続に努めている。また、数ヶ月に1回家族と自宅に戻る利用者や、以前勤めていた会社のお別れ会に出席する利用者など、個々の生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気が合わない入居者様もおられる為、トラブルに発展しないように気を配っている。雰囲気が悪くならないようにスタッフがフォローし、周囲の入居者様にも安心して過ごしていただけるよう気を付けている。声かけの仕方や座席にも気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様から別の入居の相談を受けることもある。他施設へ転居となられた方へは、相手施設やご家族様に、何かあればご相談して下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からもご本人様の思いが聞けるようにコミュニケーションを図っている。お一人おひとりの願いが叶えられるような活動を実施していきたいと考えている。	個々の思いや暮らしの希望等は、日中の会話から把握したり、家族に聞いたりしている。把握が困難な時は、利用者を書いてもらうこともある。体操など、利用者本人がやりたくない事は強要せず、個々の生活ペースに配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの際に、ご本人様・ご家族様より職歴、生活等について確認している。入居後も生活していく中で新たな情報があれば、スタッフ間で共有しサービスに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の現状を記録する上で、お一人おひとりの言動や発言等を記録し、毎日の申し送りで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向を踏まえて計画を作成している。スタッフ同士で意見交換を行い、ご本人様・ご家族様の意向を確認しながら、プランに反映させている。必要時には、適宜プランの変更を行っている。	担当職員がアセスメントし、計画作成担当者がまとめ、回覧板で全職員に周知している。また、計画作成担当者が中心となり、半年に一回モニタリング及び見直しを行っている。モニタリングの際、外国人介護職員も参加しており、判断が難しい時は管理者がサポートしている。主治医が来訪した際、意見やアドバイスがあればプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察力の向上と、簡潔にわかりやすく文章にする能力を養う必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の状況に応じ、スタッフ・医師・看護師との連携を図り、柔軟な対応ができるよう努めている。病院受診・買い物支援等も柔軟に対応して、個々の満足度を高めるよう努力している。移動販売も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で得た情報により、地域行事に参加するよう努めている。又、外部のレクリエーション等の活用により、リフレッシュして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やその他の専門医との連携を図り、個々に合った適切な医療を受けられるよう支援し、急な受診があった場合はスタッフが受診に付き添っている。定期的な往診でお1人おひとりの健康管理と医療支援に努めている。	協力医がかかりつけ医となり、月2～3回来訪している。24時間体制で適切な医療を提供しており、協力医とのホットラインもある。また、歯科医による口腔ケア（月二回）もあり、家族と相談の上、個別に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフと介護スタッフとの連携・相談しっかりとできている。些細なことでも報告し合えるような関係作りに努め、入居者様が安心して過ごせるような環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院後に適切な対応が受けられるように、病院側と情報提供・交換を行っている。また、早期に退院できるように、病院側からのアドバイスやリハビリ等の助言も積極的に受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には契約時に、重度化指針をご説明しています。入居後も幾度となくご家族様の思いを聞くように努めている。スタッフ間では、ご本人様・ご家族様の意向も共有している。	契約時、指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、家族と協力医、事業所で話し合い、方針を決定している。大半の家族は事業所での看取りを希望している。また、オンデマンド配信で全職員を対象とした看取り研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師等からアドバイスを受けている他、日頃からスタッフ間で救急の際の手順や対応について確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。同時期に消火器や火災報知器等の災害設備の点検も行っている。地域との協力体制の構築は課題である為、地域住民との関わりを今より持てるように努めていきたい。	年2回、昼夜想定のもと、水害による消防訓練を行っており、利用者も参加している。また、BCP（事業継続計画）に基づいた訓練や水消火器による消火訓練も行っている。運営推進会議の際、地域の人に参加を呼び掛けている。	訓練の際、地域の人の参加に期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方に応じた声かけや対応を行っている。スタッフ間でも声かけや対応について話し合いをすることで意識を高めている。排泄に関してはプライバシーを確保した支援を行っている。	利用者の状態・状況・反応に合わせて、ゆっくりと大きな声で言葉かけしたり、昔呼ばれていた名前で読んだりしている。その際、利用者や家族の希望・要望にも配慮している。オンデマンド配信で接遇研修も受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の性格や残存能力に合わせた方法で、ご本人様に満足していただい、好きなように生活が送れるよう自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合でケアしていないかどうか、スタッフ間で気づき指摘し合い、その方に合った生活について話し合い、個々の思いを尊重した個別支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望や個性に合わせて支援している。訪問美容を利用し、散髪やカラー、パーマをかけたりされている。衣装は、できる限りご本人様に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけをし、出来る方には下ごしらえ等を手伝っていただいている。入居者様と一緒に育て、収穫した旬の野菜を調理することや、管理栄養士による月一回の手作り献立も楽しみの一つになっている。	基本的には配食サービスを活用しているが、月一回、管理栄養士の指導のもと、買い物から調理まで全て手作りする機会を設けている。また、行事の際も、おしるこやバイキング形式の料理などを手作りしている。畑の野菜を利用者と一緒に収穫し、収穫した野菜で豆ごはんを作ったり、机拭きや食器洗いなど、出来る人には参加してもらいながら、食事が楽しく喜びとなる様に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量・水分量を記入し、不足時にはその都度状況に合わせて必要量摂取できるよう、スタッフ間で共有している。体調が悪い時等、状態によって食事が中々進まない時は、ご家族様に好きなものを用意して頂き、食事の代わりに提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表に記入し、実施し忘れないようにしている。毎食後義歯洗浄・うがいの声かけ・介助を行っている。毎日就寝前にポリドントを使用している。訪問歯科の方にも指導いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、個々の排泄パターンを把握し、タイミングをみて排泄支援を行い、失禁減少を図り、トイレでの排泄を促している。	排泄表で個々の排泄パターンを把握し、昼間は個々にトイレ誘導、夜間はオシメやパット交換、ポータブルトイレなど、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況をスタッフ間で共有している。お一人おひとりの特性や体質も把握し、主治医や看護師と相談しながら便のコントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まってはいるが、お一人おひとりの希望やタイミング、健康状態に合わせた入浴体制をとっている。	週2回、午前中に入浴支援しているが、利用者の気分に合わせて午後に入浴することもある。また、季節湯を提供したり、好みのシャンプーを使ったりして、入浴を楽しんでいる。清拭・足浴・シャワー浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については、個々の意見を尊重している。夜間帯や不眠時は温かい飲み物を提供したり、スタッフと過ごしたり、安眠できるよう支援している。見守りライフも導入し、より良い眠りを確保できるよう医師・薬剤師との連携も取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬情報をファイルしすぐ確認できるようにし、理解を深めるよう努めている。薬が変更になった場合は、状態を記録し、医師へ状態報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々にコミュニケーションの中から、その方の趣味や得意なこと等の把握に努め、個々の力を発揮できるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等により気分転換を図っている。四季に合った外出計画を立てて実施している。ご家族様来所時に一緒に外出される方もいる。	家族と墓参りに行ったり、職員と紅葉狩りや近所の桜を見に行ったりして、気分転換を図っている。3月30日には、歩ける人は足守の水公園に、車いすの人は早島のふれあいの森に外出する予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる入居者様は、ご家族様の協力も含め所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるようにしている。希望により携帯電話を持たれている方もいる。ご家族様からの手紙の受け渡しも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りや置物を工夫して、入居者様と一緒に作成し展示している。照明は時々に応じた明るさ、自然光を取り入れる等工夫している。ホールから見える所に季節の花や野菜を植えて、季節感を味わっていただいている。	共有ホールには大型の空気清浄機が置かれ、空気の淀みもない。温度や湿度も適切に管理されている。壁や階段には、作家の切り絵やちぎり絵、写真等が掲示され、四季を感じることが出来るよう、工夫している。居間の南側のベランダでは、プランターで花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりが思いのままに過ごしていただける空間・雰囲気作りに努めている。食事の席は決まっており、そうすることで安心される入居者様がほとんどである。フロアーにはテーブル席の他にもソファや畳スペースがあり、自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具や写真・本等を持参していただき、ご本人様に馴染のあるものを配置することにより、居心地のよい環境作りに努めている。	かつて使用していたタンスや文机・化粧道具、美術館のカレンダー・人形等を持ち込むなど、それぞれの利用者の生活が感じられる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理の下ごしらえ、掃除、洗濯物干し・たたみ等できることはしてもらっている。スタッフの都合で手を差し伸べることはせず、個々のできること、わかることを把握し、本人の残存機能を生かしてもらいながら、安心して過ごしていただけるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200941		
法人名	株式会社サンプレラ		
事業所名	グループホームパラソル倉敷中庄 (虹)		
所在地	倉敷市中庄2371-1		
自己評価作成日	令和 7 年 3 月 4 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=3390200941-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 7 年 3 月 23 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居前との生活とのつながりが途切れないよう馴染の場所へ外出を支援し、家族や馴染のひととの関わりを持てるように努めています。敷地内に畑があり、四季折々の野菜を入居者様と一緒に育てています。昔の経験を活かし生き生きと畑作業をされ、スタッフも色々勉強させていただいております。それぞれのできることを活かし役割を持っていただいたり、生活にとって必要な動作について、できることはご自身で行っていただけるような支援を心がけております。又、表情豊かに暮らしていただけるよう、お一人おひとりに合わせた作業・運動・野外活動や、ボランティアの方による催し物、プロの方によるアロママッサージやオンラインエクササイズも行っています。特定技能実習生のスタッフが、自国の料理や文化の紹介をする機会を設け、入居者様やスタッフ同士の関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として挙げられるのは、次の2点である。まず、1階・2階の連絡をスムーズに行うための手段としてインカムを導入することで、職員間に一体感が生まれると共に、人出不足の解消やヒアリハット・事故の軽減に繋がっていること。次に、配食による食事提供が基本であるが、管理栄養士の指導のもと、月一回、買い物から調理まで全て手作りする機会を設け、食事の楽しさや喜びを提供していることがある。工夫点は、チームワーク良くケアにあたれるよう一日の流れを作成していることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの人生を過ごされた方々の経緯を尊重し、人生の先輩として尊敬の念を図りながら、個々のニーズに沿った支援を行うことにより、日々充実した生活の提供と理念の周知を実施。	各階の共有ホールに法人理念を掲示し、周知している。また、法人理念に基づいた理念を各階で作成している。外国人介護職員に対しては思いやりを持ち、実践を通じて周知している。個人評価(年2回)の際に確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへ参加させていただいた。また、地域のボランティアセンターへも出かけ交流を図るようにしている。	中庄夏祭りに参加したり、地域ボランティアセンターがやってるランチを食べに行ったりして、地域と交流している。また、家族による獅子舞踊りを鑑賞したり、子供たちの演奏を見て楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進への参加の呼びかけ等行っており、少しずつではあるが協力を得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、頂いたアドバイスや意見はスタッフ間で共有し、サービス向上に活かしている。	市の担当者や地域包括、民生委員、近隣地域のグループホームなどが参加して、2ヶ月に一回開催している。地域ボランティアセンターがやってるランチのお店に行ったり、「ニヤリホット」を検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方へ不明な点、判断に困るような事は相談させて頂いている。	施設長が窓口となり、相談することがあれば直接出向いたり、電話連絡して連携している。また、運営推進会議にも(毎回ではないが)出席しており、現状や利用者の状況を報告しながら、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議・カンファレンス時には何が拘束なのかスタッフ間で共有し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、夜間のみとさせて頂き、離設に繋がらないように散歩やドライブで気分転換を図っている。	年四回、委員会と研修を行っている。研修は身体拘束に関するオンデマンド配信を視聴し、報告書を作成・提出している。外国人介護職員に対しては、母国語によるオンデマンド配信を視聴してもらい、直接個別に指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設けて、日常の声かけやケアにおいてスタッフ間で注意を払っている。異常が発見された場合は、原因を究明しスタッフ全員に報告し、指導を行い虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者の方がいる為、実際に入居者の方との関わりを持ちながら制度を学んでいる。又、会議・カンファレンス時にスタッフ間で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には必ずわかりやすい言葉で十分な説明を納得頂けるまで行い、不安や疑問点をなくすように努めている。わからない事等あれば随時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・ご家族等の意見・要望について申し送りノートに記載し、スタッフ間で共通理解を図り運営に反映している。又玄関にご意見箱を設置している。	利用者は日常生活の中で、家族は面会時や電話連絡した際に意見や要望を聞いている。出された意見は、廊下を使用した歩行訓練や畑作業、美術館のカレンダーの購入・掲示などに反映している。また、聞き取った意見等は各階に設けている申し送りノートに記載し、全職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議時等にスタッフの現状改善意見を出し合い、問題解決改善を行い反映させている。会議に参加できない時は各自のレターボックスを活用し徹底するようにしている。	スタッフミーティングや施設長との個別面談(年2回)の中で意見や提案を聞いている。また、何かあればその都度、話を聞いている。出された意見は、就業時間や外部研修への参加、必要物品の購入などに反映している。チームワークを乱す行為や出来ない職員を攻撃することはタブーであり、前向きに建設的な意見を出して欲しいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、労働契約更新時には話し合える場を設けている。役割担当等責任感を持たせることにより、意識向上・やりがいを持たせるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人に必要と思われる研修に参加してもらっている。様々な研修の案内を事務所に掲示し、声かけにより参加を促している。スキルに合った指導の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や研修等で知り合った同業者と情報交換を行っており、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでには必ずご本人様面談をさせて頂き、しっかり話を聞かせていただくようにしている。情報はスタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるご本人様同様ご家族様とも事前にしっかりと話しをさせていただき、本音を聞けるようなコミュニケーションを図っている。不安を取りのぞき、安心して任せて頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、情報をいただくと同時に本人様・ご家族様の思い等を聞かせていただくようにしている。何が必要で、求められていることはどのようなことを見極め、満足していただけるサービスの提供を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみ等できることはしていただき、難しいところと一緒にいき、共同作業をしながら毎日楽しく過ごされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在のご本人の状態を共有し、相談しながら支援の協力をいただいている。ご本人様の食べたい物やお好きな物等を連絡し、持って来ていただくこともある。入居者様の様子を載せた通信を見られご家族様も安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事等を企画する時は、入居者様の意見も取り入れながら、馴染の場へ出向く機会を設けている。又、友人や知人からの電話や面会の際には、次の面会に繋がるような声かけを意識している。	馴染みのホームセンターに買い物に行ったり、小・中学校の同級生からの電話を取り次いだり、家族からの手紙を本人に渡し、読めなければ読んであげたりして、馴染みの関係継続に努めている。また、数ヶ月に1回家族と自宅に戻る利用者や、以前勤めていた会社のお別れ会に出席する利用者など、個々の生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気が合わない入居者様もおられる為、トラブルに発展しないように気を配っている。雰囲気が悪くならないようにスタッフがフォローし、周囲の入居者様にも安心して過ごしていただけるよう気を付けている。声かけの仕方や座席にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様から別の入居の相談を受けることもある。他施設へ転居となられた方へは、相手施設やご家族様に、何かあればご相談して下さいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からもご本人様の思いが聞けるようにコミュニケーションを図っている。お一人おひとりの願いが叶えられるような活動を実施していきたいと考えている。	個々の思いや暮らしの希望等は、日中の会話から把握したり、家族に聞いたりしている。把握が困難な時は、利用者を書いてもらうこともある。体操など、利用者本人がやりたくない事は強要せず、個々の生活ペースに配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの際に、ご本人様・ご家族様より職歴、生活等について確認している。入居後も生活していく中で新たな情報があれば、スタッフ間で共有しサービスに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の現状を記録する上で、お一人おひとりの言動や発言等を記録し、毎日の申し送りで情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向を踏まえて計画を作成している。スタッフ同士で意見交換を行い、ご本人様・ご家族様の意向を確認しながら、プランに反映させている。必要時には、適宜プランの変更を行っている。	担当職員がアセスメントし、計画作成担当者がまとめ、回覧板で全職員に周知している。また、計画作成担当者が中心となり、半年に一回モニタリング及び見直しを行っている。モニタリングの際、外国人介護職員も参加しており、判断が難しい時は管理者がサポートしている。主治医が来訪した際、意見やアドバイスがあればプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察力の向上と、簡潔にわかりやすく文章にする能力を養う必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の状況に応じ、スタッフ・医師・看護師との連携を図り、柔軟な対応ができるよう努めている。病院受診・買い物支援等も柔軟に対応して、個々の満足度を高めるよう努力している。移動販売も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で得た情報により、地域行事に参加するよう努めている。又、外部のレクリエーション等の活用により、リフレッシュして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医やその他の専門医との連携を図り、個々に合った適切な医療を受けられるよう支援し、急な受診があった場合はスタッフが受診に付き添っている。定期的な往診でお1人おひとりの健康管理と医療支援に努めている。	協力医がかかりつけ医となり、月2～3回来訪している。24時間体制で適切な医療を提供しており、協力医とのホットラインもある。また、歯科医による口腔ケア（月二回）もあり、家族と相談の上、個別に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフと介護スタッフとの連携・相談しっかりとできている。些細なことでも報告し合えるような関係作りに努め、入居者様が安心して過ごせるような環境を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院後に適切な対応が受けられるように、病院側と情報提供・交換を行っている。また、早期に退院できるように、病院側からのアドバイスやリハビリ等の助言も積極的に受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には契約時に、重度化指針をご説明しています。入居後も幾度となくご家族様の思いを聞くように務めている。スタッフ間では、ご本人様・ご家族様の意向も共有している。	契約時、指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、家族と協力医、事業所で話し合い、方針を決定している。大半の家族は事業所での看取りを希望している。また、オンデマンド配信で全職員を対象とした看取り研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師等からアドバイスを受けている他、日頃からスタッフ間で救急の際の手順や対応について確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。同時期に消火器や火災報知器等の災害設備の点検も行っている。地域との協力体制の構築は課題である為、地域住民との関わりを今より持てるように努めていきたい。	年2回、昼夜想定のもと、水害による消防訓練を行っており、利用者も参加している。また、BCP（事業継続計画）に基づいた訓練や水消火器による消火訓練も行っている。運営推進会議の際、地域の人に参加を呼び掛けている。	訓練の際、地域の方の参加に期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方に応じた声かけや対応を行っている。スタッフ間でも声かけや対応について話し合いをすることで意識を高めている。排泄に関してはプライバシーを確保した支援を行っている。	利用者の状態・状況・反応に合わせて、ゆっくりと大きな声で言葉かけしたり、昔呼ばれていた名前で読んだりしている。その際、利用者や家族の希望・要望にも配慮している。オンデマンド配信で接遇研修も受けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の性格や残存能力に合わせた方法で、ご本人様に満足していただい、好きなように生活が送れるよう自己決定を促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合でケアしていないかどうか、スタッフ間で気づき指摘し合い、その方に合った生活について話し合い、個々の思いを尊重した個別支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望や個性に合わせて支援している。訪問美容を利用し、散髪やカラー、パーマをかけたりされている。衣装は、できる限りご本人様に選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけをし、出来る方には下ごしらえ等を手伝っていただいている。入居者様と一緒に育て、収穫した旬の野菜を調理することや、管理栄養士による月一回の手作り献立も楽しみの一つになっている。	基本的には配食サービスを活用しているが、月一回、管理栄養士の指導のもと、買い物から調理まで全て手作りする機会を設けている。また、行事の際も、おしるこやバイキング形式の料理などを手作りしている。畑の野菜を利用者と一緒に収穫し、収穫した野菜で豆ごはんを作ったり、机拭きや食器洗いなど、出来る人には参加してもらいながら、食事が楽しく喜びとなる様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量・水分量を記入し、不足時にはその都度状況に合わせて必要量摂取できるよう、スタッフ間で共有している。体調が悪い時等、状態によって食事が中々進まない時は、ご家族様に好きなものを用意して頂き、食事の代わりに提供しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表に記入し、実施し忘れないようにしている。毎食後義歯洗浄・うがいの声かけ・介助を行っている。毎日就寝前にポリデントを使用している。訪問歯科の方にも指導いただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表により、個々の排泄パターンを把握し、タイミングをみて排泄支援を行い、失禁減少を図り、トイレでの排泄を促している。	排泄表で個々の排泄パターンを把握し、昼間は個々にトイレ誘導、夜間はオシメやパット交換、ポータブルトイレなど、個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況をスタッフ間で共有している。お一人おひとりの特性や体質も把握し、主治医や看護師と相談しながら便のコントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まってはいるが、お一人おひとりの希望やタイミング、健康状態に合わせた入浴体制をとっている。	週2回、午前中に入浴支援しているが、利用者の気分に合わせて午後に入浴することもある。また、季節湯を提供したり、好みのシャンプーを使ったりして、入浴を楽しんでいる。清拭・足浴・シャワー浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息については、個々の意見を尊重している。夜間帯や不眠時は温かい飲み物を提供したり、スタッフと過ごしたり、安眠できるよう支援している。見守りライフも導入し、より良い眠りを確保できるよう医師・薬剤師との連携も取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬情報をファイルしすぐ確認できるようにし、理解を深めるよう努めている。薬が変更になった場合は、状態を記録し、医師へ状態報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々コミュニケーションの中から、その方の趣味や得意なこと等の把握に努め、個々の力を発揮できるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等により気分転換を図っている。四季に合った外出計画を立てて実施している。ご家族様来所時に一緒に外出される方もいる。	家族と墓参りに行ったり、職員と紅葉狩りや近所の桜を見に行ったりして、気分転換を図っている。3月30日には、歩ける人は足守の水公園に、車いすの人は早島のふれあいの森に外出する予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる入居者様は、ご家族様の協力も含め所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用できるようにしている。希望により携帯電話を持たれている方もいる。ご家族様からの手紙の受け渡しも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りや置物を工夫して、入居者様と一緒に作成し展示している。照明は時々に応じた明るさ、自然光を取り入れる等工夫している。ホールから見える所に季節の花や野菜を植えて、季節感を味わっていただいている。	共有ホールには大型の空気清浄機が置かれ、空気の淀みもない。温度や湿度も適切に管理されている。壁や階段には、作家の切り絵やちぎり絵、写真等が掲示され、四季を感じることが出来るよう、工夫している。居間の南側のベランダでは、プランターで花を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりが思いのままに過ごしていただける空間・雰囲気作りに努めている。食事の席は決まっており、そうすることで安心される入居者様がほとんどである。フロアーにはテーブル席の他にもソファや畳スペースがあり、自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた家具や写真・本等を持参していただき、ご本人様に馴染のあるものを配置することにより、居心地のよい環境作りに努めている。	かつて使用していたタンスや文机・化粧道具、美術館のカレンダー・人形等を持ち込むなど、それぞれの利用者の生活が感じられる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理の下ごしらえ、掃除、洗濯物干し・たたみ等できることはしてもらっている。スタッフの都合で手を差し伸べることはせず、個々のできること、わかることを把握し、本人の残存機能を生かしてもらいながら、安心して過ごしていただけるようにしている。		